

地 域 連 携 だ よ り

彦根市立病院
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地
TEL : 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室
TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093

いつもありがとうございます

地域で生きる・暮らすことを 支援できるつながりを構築する

地域連携センター次長
循環器内科 部長

宮澤 豪



皆様こんにちは。

この度、『地域包括ケア病棟』を担当することとなりました、循環器内科 宮澤 豪です。

当院では、平成30年10月より『地域包括ケア病棟』を7B病棟に開設することとなりました。さて、この『地域包括ケア病棟』とはどういった病棟かご存知でしょうか。

日本では現在、これまでに例をみないスピードで高齢化が進んでいます。特に団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、医療や介護の需要がさらに増加することが予想されます。こういった高齢化社会の中で、急性期治療を終了しても足腰が弱ってしまった、体調がまだ完全に回復していないといった患者さんも多くなってき

ております。このような時代背景の中でも、急性期病棟では、病状が安定すると早期にご退院いただく必要があります。

しかし『地域包括ケア病棟』では、急性期治療を終了し病状が安定していても、すぐに自宅や施設などでの療養に移行することに不安がある患者さんに対して、在宅復帰に向けて、医療管理・診療・看護・リハビリを行うことが可能です。安心して在宅へ戻るまでの間、医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー等が協力して、患者さんへサポートをさせていただきます。

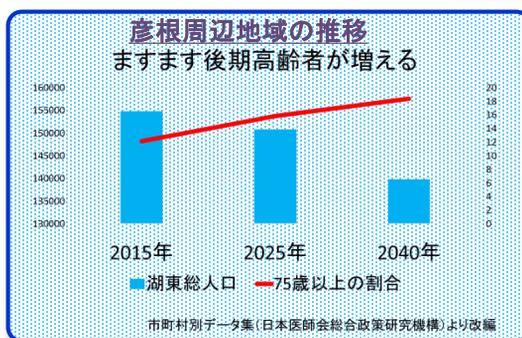
これからもスタッフ一同努力をしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

10月から「地域包括ケア病棟」を開設します

◆湖東地域の人口は？

これからは、湖東地域の総人口は顕著に減少していきますが、高齢者の人口は相反して増えていきます。

近頃、急性期病院でも非常に高齢者の入院が多くなってきました。昔は、もう少し若い患者さんが多かったのですが、90歳、中には100歳を超える方の入院もあります。



◆当院、急性期病院として

彦根市立病院は湖東保健医療圏の急性期病院として、救急診療を断らない姿勢で急性期治療にあたっています。機能分化がすすんだことで平均在院日数は年々短縮され、8月現在は13日となっています。急性期治療を受ける過程では、安静を余儀なくされることが多く、元々持ち合わされていた身体機能が低下することは少なくありません。「トイレにいけない」「せめてポータブルトイレに移れない」と自宅に連れて帰ることができないといったご家族からの声はしばしば聞かれます。しかし、高齢者が元のADLに戻るためには、この在院日数は十分とは言えません。

◆2018年10月より7B病棟41床は地域包括ケア病棟！

今回、地域包括ケア病棟を開設するにあたり、7B病棟では、患者さんやご家族に不安を抱えながら退院していただくことのないよう、在宅復帰支援を使命とし、活動していきたいと考えています。

★役割は？

「ADLの回復」「患者、家族への教育と指導」「退院調整」です。

例えば、「ADLの回復」

- ① 目標立案...生活するために困らない現実可能な目標を患者さんやご家族と相談しながら立案。
- ② 日常生活の中でリハビリ...退院後の生活を想定しながら専従の理学療法士・看護師と行う。
- ③ 目標に到達...その頃より退院を調整。

★できる限り自宅での生活が実現できるよう質の高い支援を目指し、毎日のカンファレンスにも力を入れています。

★専従の退院調整看護師と理学療法士が1名ずつ配属されており、退院後の生活における不安や悩み事に迅速に対応できる体制をとっています。また、病棟看護師と共に、状況に応じて家屋調査や退院前・退院後の自宅訪問も行います。

◆診療所・病院の先生方にお知らせしたいこと

- 当院の地域包括ケア病棟の平均在院日数は20日～25日を目指しています。
- 急性期治療が必要となった場合は、一般病棟へ転棟になります。
- 対象患者さま
 - 急性期入院治療により状態は改善したが、もう少し医療とリハビリ、療養準備が必要な方。
 - 糖尿病などの教育入院（2回目以降）。
 - 在宅療養をされている方などのレスパイト入院。原則1週間



急性期病院での地域包括ケア病棟の役割を自覚し、地域完結型の医療を実現するために取り組みます！

急性期病院における認知症ケア

認知症院内デイケア「荒神さん」開設



当院では「住み慣れた地域で健康を支え、安心とぬくもりのある病院」を目指し、あたたかな心で患者さんの療養をサポートするため、7月より、入院中の認知症高齢者の方を対象に院内デイケアを開設しました。

「荒神さん」の名前の由来は、『荒神山は、びわ湖・彦根城に次ぐ第3の彦根のシンボル！デイケアの病室から荒神山が見え、そこを起点に、自分の家を目指そう！』です。

◆ねらいは？

地域包括ケアシステムの一助としてその人らしい在宅療養への支援に繋げる。

- ①環境・・・日常的に行っていた事ややりたい事ができる環境 } 提供
その人らしさが発揮できる環境
- ②支援・・・楽しく安心できる居場所づくりや自律・自立に向けた支援
- ③職員の教育・・・職員の認知症の方に対する理解を深め、日常のケアに活かしていく。

具体的に！

- ▶院内デイケアに参加することで、生活リズムが整い、穏やかに過ごしたり、夜間休めるようになることや「次回も参加したい」「私、○○がしてみたい」などの主体的な発言がきかれる。
- ▶病棟の看護師が、院内デイケアでの患者さんの潜在能力・主体的な姿をみて、アセスメントの視点が広がり、個別性のある看護の実践に繋がる。
- ▶これらのことを通して、患者さんが必要な治療を受け、元の状態で早期に元の場所へ退院できる。

◆対象患者さんは？

認知症ケアチーム介入患者と7B病棟入院患者

◆日時・場所

毎週、水曜日 15時から17時 7B病棟院内デイケアルーム



◆内容

現在、ボランティアの方のご協力のもと、毎回約10名の参加者の方が、歌やゲーム、季節の壁面づくりなどに取り組んでいます。是非、一度参加者の方の生き生きとした表情を見に来てください。

◆患者さん・ご家族さんからの声

Cさん



しゃべりたいけど、部屋やと何しゃべってええかわからんし、次もあっち行きたい

部屋では、カーテンで閉めきられていることが多く、同室者と話がしにくく、デイに参加し話すことできっかけ作りになりました。

病院の中にそんなのがあるんですね。入院前はデイケアをすごく楽しんで通っていたので、途絶えなくてよかった。参加させてもらうのが私の励みにもなってきました。

ご家族



あっ！この間の看護師さん。私、今度行ったらな、もう1つ歌いたい歌があった。荒城の月♪卒業式の時に歌ったんよ。歌うと楽しかった時を思い出すの。今度、前で歌ってもいい？



Aさん

次回開催日、Aさんは、歌詞カードも持参され、参加者の前に出て挨拶を交えながら堂々と歌われました。

地域医療連携室からのお話

『病床調整・ベッドコントロール』という言葉をご存知でしょうか？

当院は、湖東医療圏の唯一の公立病院、急性期病院として、地域で急性期を必要としている患者さんに高度な医療を提供する役割を担っています。『断らない救急』を信念に、住民の生命を守るために365日24時間体制で対応しており、救急要請受け入れ率は99.7%です。

以前は、他病院や診療所さんからの依頼にかなりの時間を要し、ご迷惑をおかけしておりましたが、平成29年度より地域医療連携室に看護師と病床調整担当が入り、『迅速な対応、地域への信頼！』をモットーに活動をしています。

病床担当が院内全体の空床状況・入院・退院の状況を把握し病床調整を行っています。この科は、この病棟ととらわれずに混合病床化し調整を行い、医療を必要としている患者さんを断らずに受けています。病棟の専門性（核）の部分は壊さずに、病床担当が、入院時の患者さんの状況から最適な病棟を選択しています。

10月からは、地域包括ケア病棟が開設されます。今以上に診療情報管理士とともに、DPCデータからの情報や、DPC期間を共有し、患者さんにとって、安心して入院していただけるように、病床調整をしていきます。

湖東医療圏内にある4つの病院での機能分化が進んでいる中、当院は、急性期の重症患者を受け入れ、集中的な急性期医療を実践し、速やかに退院や転院を行い、地域で完結できるように、今以上に地域連携の充実に努めていきたいと思っております。



9月をもって退職となる循環器科部長 池田智之医師

彦根市立病院では平成14年4月からお世話になっております。当直業務に携わらせていただいた4年間の大学院生活も含めると、16年半お世話になりました。

病院が現在の八坂町に移転したのが、平成14年7月でしたので、すでに取り壊しとなった旧病院でも3ヶ月間だけですが、勤務させていただきました。

当時、循環器内科という科はまだなく、私は内科に所属しておりました。何曜日かは忘れましたが、毎週1回、西日の強く当たる部屋に集まって内科カンファレンスをしていました。

新病院移転にむけて医師が増えている時期であり、西日の当たる

あまり広く無い部屋にたくさんの医師が集まっていたため、カンファレンスに集まるのが辛かったのを覚えております。しかし、旧病院はご存知のように彦根城のお堀に面していましたので、“江戸時代の彦根藩の人たちもここを歩いていたんだろうな”とか“このお堀の中には江戸時代からの落とし物もあるんだろうな”などと考えながら病院の側を歩くだけで歴史を感じることができたので、移転を少々残念に思ったのを覚えております。

当時は彦根市立病院にこのように長い期間お世話になるとは思っておりませんが、滋賀県はとても住みやすく、また、病院の皆様や地域のみなさまに大変温かく接していただき、あっという間の16年でした。多くの方に支えていただき、学ぶことができました。大変感謝しております。

本年11月より、野瀬町で“いけだ内科医院”を開設させていただきます。

皆様に少しでも恩返しができるように、精進したいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

